

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

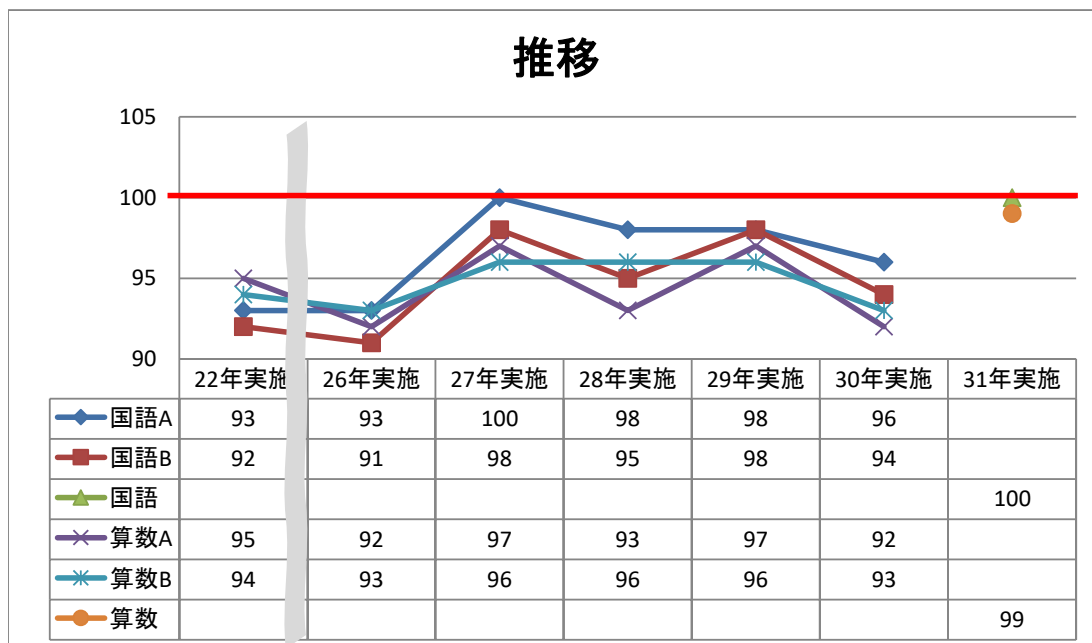
○ 平成31年度4月、全国学力・学習状況調査において、「国語 96、算数 94」を上回る。

3.指標に向けての取組

- 朝の学習活動の時間に専科教員が入り、つまづきに応じた指導を行うことで、基礎基本の定着を図る。
- 日記や作文指導において、一人一人に丁寧な評価(コメント)を返すことで、書くことを途中で諦めない態度を育てる。
- 算数では、全単元を通して複数の教員体制で授業を行う。
- 家庭学習強化週間を設け、家庭学習の習慣化を図り、宿題の提出率100%を目指す。また、自学強化週間や自学ノートの表彰を行うことで、学ぶ意欲の向上を図る。
- 中学校進学に向け、3学期に複数体制で算数の総復習を行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	100	99
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- 国語・算数において、短期指標を達成することができた。要因としては、次の三点が考えられる。一つに、自分の考えを言葉や図等がかいたり発表したりする活動を、複数回授業に位置付けたこと。二つに、算数の学習を中心に専科教員を有効に活用し、学力の厳しい児童の補充にあたったこと。三つに、家庭学習において、「質・量・時間」を見直し、提出率100%を目指した取組を、徹底して行ったこと。
- 教科全体で見ると指標を達成することはできたものの、領域別に見ると、国語においては「話す・聞く」「書く」、算数においては「量と測定」「図形」「数量関係」において、平均正答率が全国を下回っている。国語においては、目的や意図に応じて、根拠に基づいた自分の考えを書く力の育成、算数においては、基礎基本の定着を図る必要がある。

6.各学校における今後の取組

- 校内研における「自分の考えを持ち表現できる児童」を育てる取組の日常化。【継続】
- 算数重要単元における形成的評価テストの実施【新規】と、毎時間の授業における形成的評価の確実な実施及び個に応じた指導の徹底。【継続】
- 算数の授業における全学年専科教員の配置、重要単元での習熟度別指導の実施。【継続】
- 朝の学習活動・家庭学習における、過去問及びフォローアップシートの活用の推進。【継続】
- 家庭学習・自学強化週間(学期に1回以上)の定期的な実施。【継続】
- 専科教員を中心とした放課後の個別指導の充実。【継続】
- 「いなちゃんパワーアップタイム(鍛ほめ)」を活用した、学ぶ意欲や自己肯定感の向上及び基礎基本の定着。【新規】

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができるよう、指導と評価の一体化を図る即時評価の取組を奨励したり単元終末段階における習熟度別学習の取組を支援したりする。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。